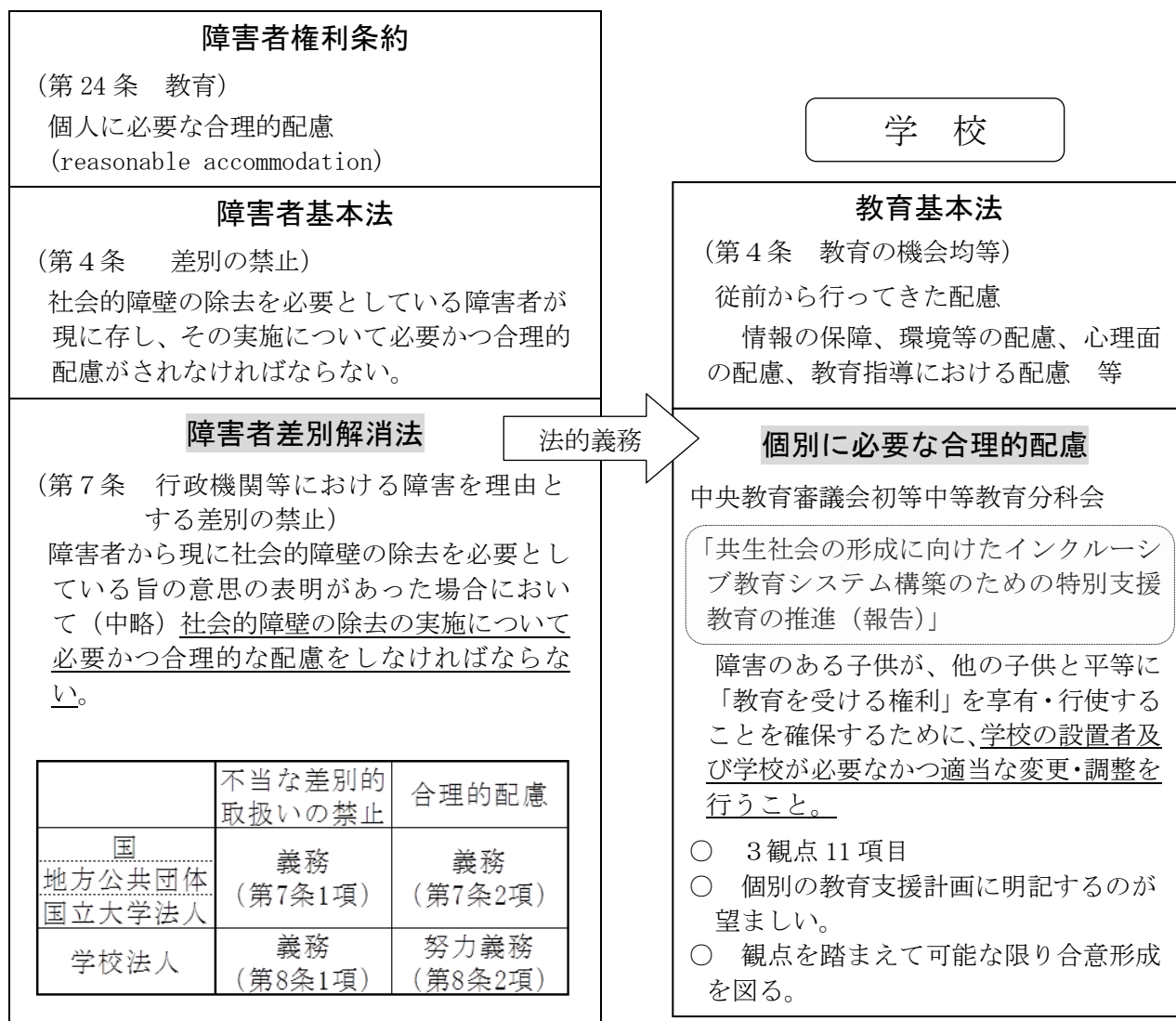


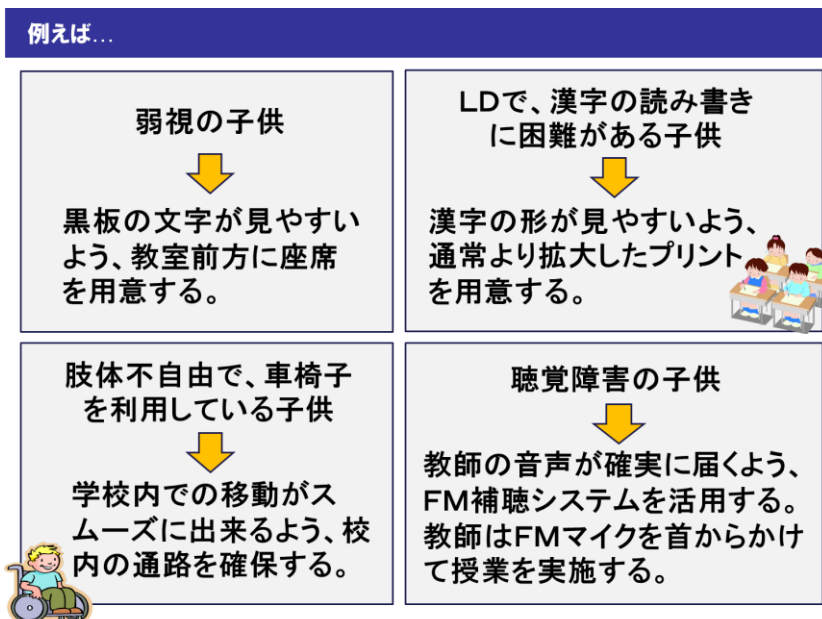
障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮
及びその基礎となる環境整備



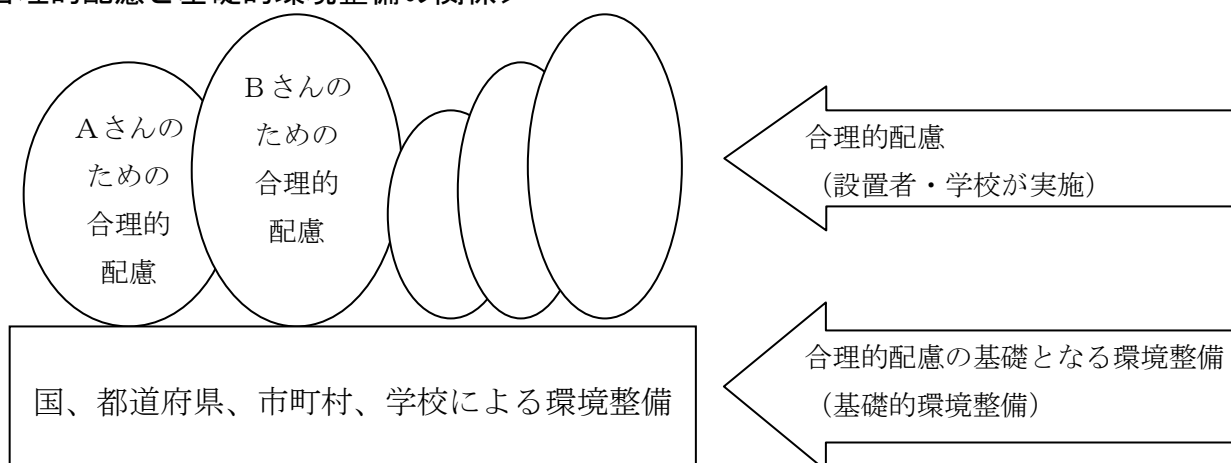
<学校における合理的配慮の観点>

3観点	11項目
教育内容・方法	1 教育内容 ・学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 ・学習内容の変更・調整 2 教育方法 ・情報・コミュニケーション及び教材の配慮 ・学習機会や体験の確保 ・心理面・健康面の配慮
支援体制	1 専門性のある指導体制の整備 2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 3 災害時等の支援体制の整備
施設・設備	1 校内環境のバリアフリー化 2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

<合理的配慮の例>



<合理的配慮と基礎的環境整備の関係>



<基礎的環境整備の例>

- ① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ② 専門性のある指導体制の確保
- ③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④ 教材の確保
- ⑤ 施設・設備の整備
- ⑥ 専門性のある教師、支援員等の人的配置
- ⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧ 交流及び共同学習の推進